

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA 4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析(主)担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析条件等

適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。

複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、測定回数分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能です。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○標準原液の区分又は標準原ガスの区分

区分としては、「購入」と「自作」となっています。「購入」とは、分析用として適当な濃度に調製している溶液又はガス（例えば溶液では1000mg/L、ガスでは1ppmのように濃度表示されたもの）購入し、希釈して標準液や標準ガスとしている場合です。「自作」とは、原体（100%のもの、不純物を含む場合もある）を購入し、希釈して標準原液の区分又は標準原ガス、更に希釈して標準液や標準ガスとしている場合です。

○分析結果

分析結果は必須項目です。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件でエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

なお、分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

○分析方法

分析方法も必須項目です。選択されていないとエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○報告書の確定

ホームページでは期限内に報告書の確定を必ず行ってください（「報告書一覧表」から確定したい「報告書」を選択して、「報告書確定」をクリックしてください）。「報告書確定解除」を行った場合も、修正等の後には必ず「報告書確定」を行ってください。詳細は、前記3-8を参照ください。

○アンケート

ホームページから分析結果報告書を作成する機関を対象とした「ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート」及び調査参加機関を対象とした「環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート」を実施しますので、ご協力をお願いいたします。アンケートの記入方法は、後記4-9に示しています。

4-1 分析結果報告書 [1]

表4-1 水質試料1 (COD) (分析結果報告書 [1])

分析結果	実施要領5の希釈方法に従って共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料中の濃度 (mg/L) を記入。数値(半角)入力。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。

<測定条件等> 試料量 銀塩の使用 種類 添加量 添加後のかく拌 水浴中の温度 標準原液 区分 過マンガン酸カリウム溶液のファクター 過マンガン酸カリウム溶液の滴定量 試料 空試験 検出下限値	数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL又はg。 コンボボックスより選択し、()内に時間(単位：分)を記入。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：℃ コンボボックスより選択。購入した場合には、メーカー名と濃度(単位：mmol/L)を具体的に記入。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位：mL。3回分記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 試料中の濃度(単位：mg/L)として記入。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。 例(COD) 分析結果(mg/L) = (試料の滴定値mL - 空試験の滴定値mL) × 過マンガン酸カリウム溶液のファクター × 1000 ÷ 試料量mL × 0.2

4-2 分析結果報告書 [2]

表4-2 水質試料1 (全窒素) (分析結果報告書 [2])

分析結果	実施要領5の希釈方法に従って共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(mg/L)を記入。数値(半角)入力。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。

(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<加熱分解> 試料の希釈 試料(又は希釈した試料)量 ペルマンゲニウム二硫酸カリウム溶液の添加量 分解瓶 種類 容量 加熱分解 温度 時間	希釈倍率の数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(°C又は時間)。
<紫外吸光度法> 加熱分解後の溶液の分取量 pH調節 測定波長	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：nm。
<硫酸ヒドラジウム還元法> 加熱分解後の溶液の分取量 還元 温度 時間 還元効率 還元率 測定波長	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 数値(半角)入力。単位：°C。 数値(半角)入力。単位：分。 数値(半角)入力。単位：%。 数値(半角)入力。単位：nm。
<銅・カドミウム還元法> 加熱分解後の溶液の分取量 還元溶液の量 銅・カドミウムの充てん剤 還元効率 還元率 測定波長	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位：mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：%。 数値(半角)入力。単位：nm。

<p><流れ分析法> 測定方法 装置のメーカー、型式 還元効率 還元率 分解率 繰返し性 回数 繰返し性(CV) 測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：％。 数値(半角)入力。単位：％。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：％。 数値(半角)入力。単位：nm。</p>
<p><検量線の作成等> 定量方法 方法 内標準物質の種類 検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小 最大 単位 最高濃度の指示値 標準液濃度の表示 試料 指示値 空試験 指示値 検出下限値</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の量(μg)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位：最小と同じ。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 試料中の濃度(単位：mg/L)として記入。</p>
<p><試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点</p>	<p>150文字以内で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p>150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料(COD)を参照する。</p>

4-3 分析結果報告書 [3]

表4-3 水質試料1 (全磷) (分析結果報告書 [3])

分析結果	実施要領 5 の希釈方法に従って共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料中の濃度 (mg/L) を記入。数値(半角)入力。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。 測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	いずれも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<ペルオキソ二硫酸カリウム溶分解法> 試料の希釈又は濃縮 試料(又は希釈又は濃縮した試料)量 ペルオキソ二硫酸カリウム溶液の添加量 分解瓶 種類 容量 加熱分解 温度 時間 加熱分解後の溶液の分取量 トリブテン青の溶媒抽出 吸収セルの光路長 測定波長	希釈倍率又は濃縮倍率の数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的数値(半角)入力(単位: mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位: mL)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位: mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(°C又は時間)。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位: mL)。 実施の有無をコンボボックスより選択。 実施の場合、コンボボックスより溶媒を選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(単位: mm)。 数値(半角)入力。単位: nm。

<p><硝酸-過塩素酸分解法> 試料の分取量 硝酸の使用量 過塩素酸の使用量 加熱分解(中和)後の定容量 加熱分解後の溶液の分取量 モリブデン青の溶媒抽出 吸収セルの光路長 測定波長</p>	<p>数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に数値(半角)入力(mL)。 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入</p>
<p><硝酸-硫酸分解法> 試料の分取量 硝酸の使用量 硫酸の使用量 加熱分解(中和)後の定容量 加熱分解後の溶液の分取量 モリブデン青の溶媒抽出 吸収セルの光路長 測定波長</p>	<p>数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：mL。 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入 <ペルオキシ二硫酸カリウム溶分解法>と同様に記入</p>
<p><流れ分析法> 測定方法 装置のメーカー、型式 加水分解及び酸化分解 繰返し性 回数 繰返し性(CV) 測定波長</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 各物質ごとに 加水分解及び酸化分解率を数値(半角)入力。単位：%。 その他の物質では、物質名と加水分解及び酸化分解率を数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：%。 数値(半角)入力。単位：nm。</p>

3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 分析方法(原理1) 分析方法(原理2) 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<測定> TOC計 メーカー、型式 全炭素の測定 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量 無機体炭素の測定 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量 有機体炭素の測定 無機体炭素の除去方法 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位：μL。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位：μL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位：μL。
<検量線の作成等(全炭素)> 定量方法 方法 内標準法 内標準物質の種類 検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値 試料 指示値 空試験 指示値 検出下限 全炭素の分析結果	コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。単位：mg/L。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。単位：最小濃度と同じ。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入 数値(半角)入力。単位：mg/L(分析用試料中の濃度)。 数値(半角)入力。単位：mg/L(分析用試料中の濃度)。
<検量線の作成等(無機体炭素)>	上記<検量線の作成等(全炭素)>と同様に記入。
<検量線の作成等(有機体炭素)>	上記<検量線の作成等(全炭素)>と同様に記入。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料(COD)を参照する。

4-5 分析結果報告書 [5]

表4-5 水質試料1 (pH) (分析結果報告書 [5])

分析結果	共通試料1を試料として測定したpH (共通試料1を水で希釈しないで測定したpH) を記入。数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：なし。有効数字3桁で記入。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、原則として1回目を記入する。	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<pH計> 種類 型式 検出部 メーカー、型式 構造 検定 増幅・指示部	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 検出部と同様に記入
<校正等> ゼロ校正 標準液 種類 調製方法 校正 標準液の温度 pH調節 スパン校正 ゼロ・スパン校正の繰り返し	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：℃。 pHの値(半角)入力。単位：なし ゼロ校正と同様に記入。 回数の値(半角)入力。単位：回。
<測定> pH測定までの時間 pH測定終了までの時間 試料の温度	数値(半角)入力。単位：分。 数値(半角)入力。単位：分。 数値(半角)入力。単位：℃。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
--------------------------	------------------

4-6 分析結果報告書 [6]

表4-6 水質試料2 (ノニルフェノール及び4-t-オクチルフェノール)
(分析結果報告書 [6])

測定回数	1~5の整数(半角)入力。分析用試料のはかり取りからGC/MSの測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の回数)を記入。
分析結果(ノニルフェノール及び4-t-オクチルフェノール)	実施要領5の希釈方法に従って共通試料2を水で1000倍希釈して調製した分析用試料中の濃度($\mu\text{g/L}$)を記入。数値(半角)入力。分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2~5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析結果(参考値)	ノニルフェノール及び4-t-オクチルフェノールと同様に単位 $\mu\text{g/L}$ として記入。ただし、複数回測定では、代表値(平均値等)をひとつ記入。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料量等については、測定回数分を記入する。
<測定用試料液の調製> 試料量	数値(半角)入力。単位:mL。測定回数分を記入。
試料のpH調節	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な方法を記入。

固相抽出 型式 1、2 方法 速度 固相の脱水 窒素ガス その他 溶出 溶媒 量 溶出液の転溶 脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
溶媒抽出 塩化ナトリウム 溶媒の種類 溶媒の使用量 1 回当たりの抽出時間 抽出回数 抽出液の脱水	数値(半角)入力。単位：g。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：分。 数値(半角)入力。単位：回。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
クリーンアップ カラムによる処理等	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮方法 ロータリーエバポレーター KD 窒素吹き付け その他	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
定容量(測定用試験溶液量)	数値(半角)入力。単位：mL。
<GC/MS> GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mm。 数値(半角)入力。単位：m。 数値(半角)入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度(°C)、温度保持(分)、昇温速度(°C/分)、昇温回数(回)とも数値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。

キャリヤガス条件 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。 単位：コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。 単位：コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値(半角)入力。単位： μ L。 数値(半角)入力。単位： $^{\circ}$ C。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<定量用、確認用質量数> 区分 質量数	コンボボックスより選択。「1」(公定法)を選択した場合、次の質量数の選択等は必要ない。 すべての項目、番号とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<標準原液> 標準原液 区分 メーカー名 異性体組成比の測定方法等 組成比	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：%。
<検出下限> 検出下限 装置 試料	GC/MSへの注入量(ng)として数値(半角)入力。 試料中の濃度(μ g/L)として数値(半角)記入。
<ピークの重なりと対処> 重なりがあった異性体 重なりに対処した異性体 対処方法の概要	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 対処した方法の概要を記入(50字以内で記入)。
<検量線の作成等> 定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。測定用試料液への添加量(ng)で記入。
サゲート 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。試料への添加量(ng)で記入。 数値(半角)入力。単位：%。

検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。 GCへの注入量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 最小量と同じ。
指示値 検量線の最高濃度 試料 空試験	数値(半角)入力。 「検量線最高濃度の指示値」、「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも同じ単位で記入。
<参考：分析用試料の調製> 使用した容器 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分取した共通試料の量 定容量	数値(半角)入力。単位：mL。 数値(半角)入力。単位：mL。
分析用試料を調製してから分析 操作までの時間	数値(半角)入力。単位：分。
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料(COD)を参照する。

4-7 分析結果報告書 [7]

表4-7 水質試料2 (直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS))
(分析結果報告書 [7])

測定回数	1~5の整数(半角)入力。 分析用試料のはかり取りからLC/MS/MSの測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の回数)を記入。
分析結果	実施要領5の希釈方法に従って共通試料2を水で1000倍希釈して調製した分析用試料中の濃度($\mu\text{g/L}$)を記入。数値(半角)入力。 測定回数分の分について、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2~5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。

分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値(ピーク面積等)については、測定回数分を記入する。
<測定用試料液の調製> 試料量	数値(半角)入力。単位：mL。測定回数分を記入。
試料のpH調節	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
固相抽出 型式1、2 方法 速度 固相の脱水 吸引等 その他 溶出 溶媒 量 溶出液の転溶 脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
定容量(測定用試験溶液量)	数値(半角)入力。単位：mL。
<LC/MS/MS> <LC> メーカー・型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料注入量	数値(半角)入力。単位：μL。
カラム 充てん剤 種類 粒子径 内径 長さ	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：μm。 数値(半角)入力。単位：mm。 数値(半角)入力。単位：mm。
移動相 種類 水溶液の濃度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：%。
グラジエント	コンボボックスより選択。「行う」を選んだ場合には、方法を具体的に記入。
流量	数値(半角)入力。単位：mL/分。
カラム槽 温度	数値(半角)入力。単位：℃。

<MS/MS> メーカー・型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
イオン化 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検出 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<定量用質量数>	すべての物質とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<標準原液> 標準原液 区分 メーカー名	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限> 検出下限 装置 試料	LC/MS/MSへの注入量(ng)として数値(半角)入力。 試料中の濃度(μ g/L)として数値(半角)記入。
<検量線の作成等> 定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内標準物質 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。測定試験液への添加量(ng)で記入。
カゲート 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。試料への添加量(ng)で記入。 数値(半角)入力。単位：％。
検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小量 最大量	数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。 LCへの注入量(ng)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 最小量と同じ。
検量線最高濃度の指示値	数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 測定回数分を記入
空試験の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<参考：分析用試料の調製> 使用した容器 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分取した共通試料の量	数値(半角)入力。単位：mL。

定容量	数値(半角)入力。単位：mL。
分析用試料を調製してから分析操作までの時間	数値(半角)入力。単位：分。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料(COD)を参照する。

4-8 分析結果報告書 [8]

表4-8 大気試料（揮発性有機化合物）（分析結果報告書 [8]）

測定回数	1～5の整数(半角)入力。分析用試料のはかり取りからGC/MSの測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の数)を記入。
分析結果(詳細項目)	数値(半角)入力。単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。 分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
・分析結果(検出下限値以上) (検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析結果(参照項目)	詳細項目と同様に単位 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ として記入。ただし、複数回測定では、代表値(平均値等)をひとつ記入。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 分析時の温度 分析時の大気圧 圧力 単位	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 数値(半角)入力。単位：℃。 数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

<キャニスターの洗浄等> 減圧、ゼロガスの導入の操作 実施の有無 実施しない 実施 減圧の圧力 回数 GC/MSによる確認 最終の減圧	コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値(半角)入力。単位はコンボボックスより選択。「その他」を選 んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：回 _a 。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位はコンボボックスより選択。「その他」を選 んだ場合には、具体的に記入。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入す る。ただし、試料の指示値(ピーク面積等)については、測定回数分 を記入する。
<試料の濃縮> 試料の希釈操作 希釈倍率 (圧希釈)加圧前圧力 加圧後圧力 単位 試料量(濃縮量) 濃縮部 除湿部 濃縮部の加熱温度 トラップ管 トラップ管の加熱温度 パージガス	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な 分析方法を記入。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。 単位はコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具 体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的 に記入。 有無をコンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：℃。 有無をコンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：℃。 単位はコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具 体的に記入。
<GC/MS> GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ 場合には、具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に 記入。 数値(半角)入力。単位：mm。 数値(半角)入力。単位：m。 数値(半角)入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度(℃)、温度保持(分)、昇温速度(℃/分)、昇温回数(回)とも数 値(半角)入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温 度保持を記入。

キャリアーガス条件	種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
	流量	数値(半角)入力。 単位はコンボボックスより選択。
	圧力	数値(半角)入力。 単位はコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
注入量		数値(半角)入力。単位： μL 。
	注入口温度	数値(半角)入力。単位： $^{\circ}\text{C}$ 。
	注入方式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<定量用、確認用質量数>		すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<標準ガス> 標準原ガス 区分		コンボボックスより選択。
メーカー名		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
標準原ガス		
購入又は調製からの経過月		数値(半角)入力。単位：月。
標準ガス		
調製からの経過月		数値(半角)入力。単位：月。
<検出下限>		
検出下限	装置	GC/MSへの注入量(ng)として数値(半角)入力。
	試料	試料中の濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)として数値(半角)記入。
<検量線の作成等>		
定量方法		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
内標準法 物質の種類		コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
添加量		数値(半角)入力。単位：ng。
ベンゼン		
検量線の作成	作成点数	数値(半角)入力。整数。
作成範囲	最小量	数値(半角)入力。 GCへの注入量を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
	最大量	最小量と同じ。単位はコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
指示値		
検量線の最高濃度	試料	「検量線最高濃度の指示値」、「試料の指示値」、「空試験の指示値」とも同じ単位で記入。「試料の指示値」については、測定回数分を記入。
	空試験	
塩化メチル		ベンゼンと同様に記入する。
トルエン		ベンゼンと同様に記入する。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点		150文字以内で簡潔に記入する。

計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、水質試料(COD)を参照する。
-----	--

4-9 アンケート

○ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー（図4-9.1参照）の右の[アンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

アンケートの内容は、試料ごと（3区分）になっています。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート送付	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]水質試料(COD)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[2]水質試料(全窒素)	確定		
<input type="radio"/>	報告書[3]水質試料(全燐)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[4]水質試料(TOC)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[5]水質試料(pH)	確定		
<input type="radio"/>	報告書[6]水質試料2(ノニルフェノール及び4-tertオクチルフェノール)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[7]水質試料2(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[8]大気試料(揮発性有機化合物)	入力中		アンケート
	調査に関するアンケート	入力中		

図 4-9.1 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

いずれの試料とも、質問はコンボボックスより選択します。「2」を選択した場合には（ ）内には具体的な理由又は内容を記入してください。「確定」等の操作は必要ありません。

分析結果報告書の作成時に感じた点等	1. 良い 2. 改良すべき点、問題点等がある 内容（ ）
-------------------	----------------------------------

○環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート

環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー（図4-9.2参照）の下部[調査に関するアンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

質問はコンボボックスより選択し、（ ）内には具体的に記入してください。

アンケートは、各機関ひとつの回答となります（試料ごとの回答ではありません）。
「入力状態」については、質問の回答途中では「入力中」、回答が済みましたら「入力済み」と表示されます。「確定」等の操作は必要ありません。

<input type="button" value="報告書作成変更"/> <input type="button" value="報告書確認表示"/> <input type="button" value="報告書確定"/> <input type="button" value="チャート送付"/> <input type="button" value="報告書確定解除"/>				
報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート送付	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]水質試料(COD)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[2]水質試料(全窒素)	確定		
<input type="radio"/>	報告書[3]水質試料(全燐)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[4]水質試料(TOC)	入力中		
<input type="radio"/>	報告書[5]水質試料(pH)	確定		
<input type="radio"/>	報告書[6]水質試料2(ノニルフェノール及び4-tert-オクチルフェノール)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[7]水質試料2(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)	入力中		アンケート
<input type="radio"/>	報告書[8]大気試料(揮発性有機化合物)	入力中		アンケート
	調査に関するアンケート	入力中		

図 4-9.2 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

アンケート回答者の担当業務の区分 (ひとつを選択)	1. 環境測定分析業務の担当者 2. 環境測定分析業務の管理者 3. 環境測定分析委託業務の担当者 (委託する側の担当者) 4. 環境測定分析委託業務の管理者 (委託する側の管理者) 5. その他 ()
調査に参加する目的 (複数回答可)	1. 信頼性の確保、精度の確認等 2. 分析方法・分析技術・分析機器の確認・改善等 3. 外部精度管理として (入札に対応) 4. 外部精度管理として (ISOに対応等) 5. 他機関との比較・情報交換 6. 職員の教育等 7. その他 ()
調査の効果 (ひとつを選択)	1. 精度の確認が出来た (できる) 2. 分析技術の再確認、向上が出来た (できる) 3. 分析者の意識の向上、レベルアップとなった (なる) 4. 問題点の検討、課題の確認が出来た (できる) 5. 他の機関の動向を知る、また比較が出来た (できる) 6. 顧客の信頼とPR になった (なる) (入札資格取得に利用) 7. その他 ()
これからの調査の必要性、あり方 (ひとつを選択)	1. このままの調査方法で継続する 2. 改善を行う必要がある 3. その他 ()
その他 (自由記載)	本調査に関する希望する事項があれば記入してください。 ()